

その中には、鎖国をやめて外国と行き来をはじめたばかりの日本を、外国の人々に知ってもらう文章も書いています。『雪だるま』『お盆の行事』など、昔からの美しい日本を紹介しています。

これらは、苦しい病気の床についているころ、書かれたものです。賤子は、そのころなおることはできないといわれていた肺結核という病気におかされていました。

賤子は、死の一年三カ月前、『会津城の戦い』という英文を『日本伝道新報』に発表しました。

会津戦争を生きぬいた会津出身の三人の女性が集って、会津戦争の思い出を語りあったことがあります。その内容が、女学雑誌に発表されたのです。

病気でさえなければ、その話しあいに参加したかった賤子でした。女学雑誌に発表されたその話しあいの記事を読むと、もうだまっていることができなく